

2015 10.21 水 → 10.23 金 / 11.16 月 → 11.18 水 計6日間
第7回「システム×デザイン思考」を実践に生かす

SDM

System Design and Management

プロジェクト・デザイン
合宿研修

【後援団体】



一般社団法人 PMI日本支部



特定非営利活動法人
日本プロジェクトマネジメント協会



一般社団法人 IIBA日本支部



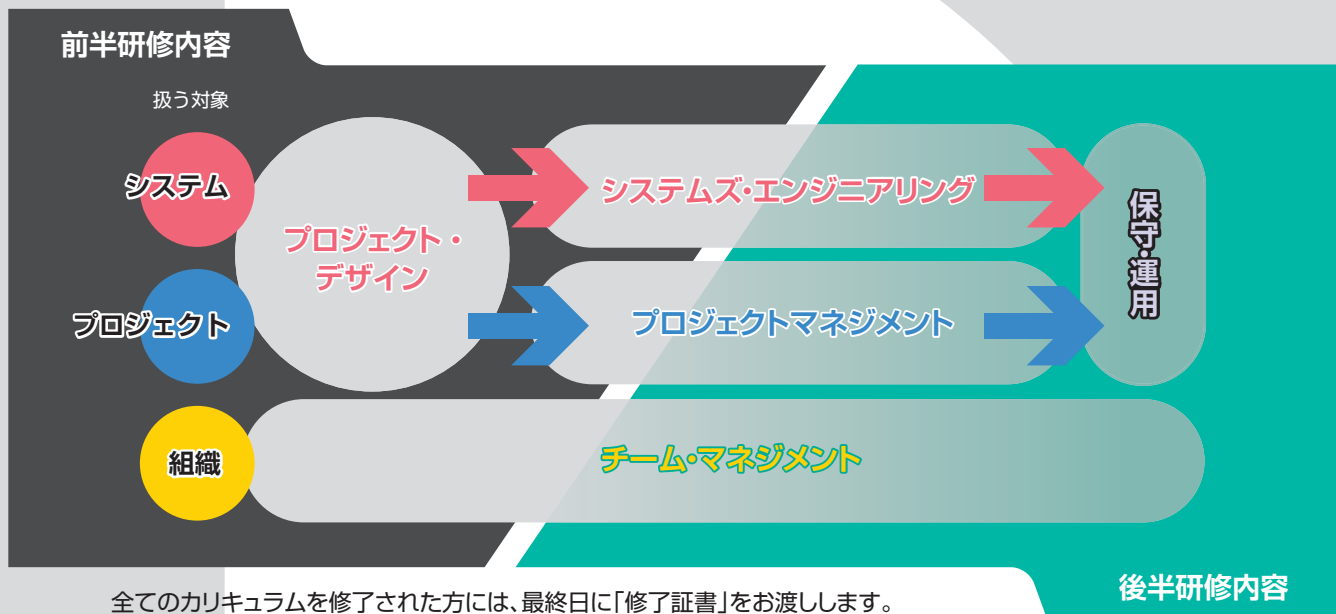
一般財団法人 エンジニアリング協会

【主催】



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属
システムデザイン・マネジメント研究所マネジメントデザインセンター

プロジェクト・デザイン合宿研修概念図



全てのカリキュラムを修了された方には、最終日に「修了証書」をお渡しします。

[ご希望の方には最大46PDUの「受講証明書(カテゴリーB)」も発行します。

また、カテゴリー2Bで最大26.25CDU自己申請することができます。]

プロジェクトは



デザインで決まる

セミナーコーディネーター

当麻 哲哉 Tetsuya Toma

消費者ニーズの多様化に伴い、製品やサービスへの期待が刻々と変化し、品質や価格、導入や販売のタイミングが、ますます厳しくなっていることは、実務に携わる皆様方にとって、肌で感じていらっしゃると思います。さらに近年のインターネット環境の発達による急速なグローバル化が、その厳しさを一層激化しており、とくに日本国内では、少子高齢化、自然災害、エネルギー不足、領土問題、国際競争力の低迷など、数々の社会的問題と相まって、状況をより複雑にしているといえます。

こうした時代に必要とされるのは、技術や政治経済の後押しとともに、新しい思考能力とリーダーシップを兼ね備えた社会の先導者となる人材であります。社会が複雑になればなるほど、全体を見渡せる力と問題の本質を多視点で捉える思考能力が重要となってくるのです。

慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科（慶應SDM）では、このような次世代のリーダーを育成すべく、独自の研究をベースにした新たなプロジェクト・デザイン手法を本研修にて提案いたします。

プロジェクトの成功のカギは、プロジェクト全体のデザインにあります。その多くは、プロジェクト立上げまでのコンセプトづくりの段階で決まりますが、プロジェクト実行中に起こる様々な環境変化に対しても、フレキシブルに対応できるデザインを施していることが重要な決め手となります。本研修では、全体を見渡しながらプロジェクトをデザインする、慶應SDM独自の思考能力の開発とともに、それを成功に導いていくための実践的な遂行能力と戦略的なマネジメント能力を伸ばし、次世代の「プロジェクト・デザイナー」を育成します。

また、本研修のもうひとつの特徴は、大学が主催するというニュートラルな環境のなかで、多種多様な業界・職種から集まった受講者たちが、お互いにワークショップを通じて情報の共有を行うことで、異業種交流がなされることです。通常の業務の中にいると、とかく狭い世界の中に閉じこもりがちです。人間関係も顧客と社内の関係者中心となってしまいます。本研修でネットワークを広げていただくことも私たちが受講者の皆様にメリットを感じていただきたいところとなっています。

ぜひこの研修を、ご自身の、あるいは貴社・貴機関の人材開発の武器としてご利用いただきたいと思います。

〈プロフィール〉 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 博士(システムデザイン・マネジメント学)

Project Management Professional(PMP)、PMI 日本支部理事(研究担当)

1988年住友スリーエム(株)(現スリーエムジャパン)入社。その後、親会社である米国3M社へ転籍。製品開発スペシャリストとして、グローバル市場での数々のプロジェクトの実績を積んだ。2008年4月より現職。システムデザイン・マネジメント研究科のコア科目「プロジェクトマネジメント」を担当。

合宿研修スケジュール

●前半

システム×デザイン思考
 チームマネジメント
 プロジェクトマネジメント
 行事

	10/21 水	10/22 木	10/23 金
8:00 9:00	【前泊可能】	朝食勉強会 当 麻	朝食勉強会 当 麻
		休 憩	休 憩
9:15 10:30	10:00～ 開講式	「予測困難な時代をより幸せに生きるために 必要な力」 米 澤	「価値から始めるプロジェクト・デザイン(概説編)」 萩 本
	休 憩	休 憩	休 憩
10:45 12:00	イントロダクション 「プロジェクトはデザインで決まる」 当 麻	「本質把握力は全ての基本」 米 澤	「ステークホルダの価値をデザインする」 萩 本
12:00-13:00	昼食会(受講者自己紹介)	昼食(各自)	昼食(各自)
13:00 14:15	「ポジティブ原則のブレインストーミング」 当 麻	「プログラムとは、プログラムマネジメントとは」 濱	「プロジェクトチームの強みをデザインする」 萩 本
	休 憩	休 憩	休 憩
14:30 15:45	「親和図法によるアイデアの整理と可視化」 当 麻	「プログラムデザインとは」 濱	「価値を要求につなげる(戦略要求ー業務要求)」 萩 本
	休憩(Coffee Break) & チェックイン	休憩(Coffee Break) & 講師との個別相談	休憩(Coffee Break) & 講師との個別相談
16:15 17:30	「顧客価値連鎖分析CVCA」 白 坂	「戦略マップの作成、プロジェクトへの展開(演習)」 濱	「前半のラップアップ」 萩本・大塚・当麻
17:30-19:00	夕食(各自) & 自由時間	夕食(各自) & 自由時間	
19:00 20:15	「欲求連鎖分析WCA」 白 坂	19:30～「因果ループとレバレッジポイント」 保 井	
	休 憩	休 憩	
20:30 21:45	「システムアーキテクチャとシステムライフサイクル」 白 坂	「共感のためのプロトタイピング」 保 井 ~22:15	
	休 憩	休 憩	
22:00 	ネットワーキング(自由参加)▶7階会議室 宿泊▶7階研修施設	ネットワーキング(自由参加)▶7階会議室 宿泊▶7階研修施設	

システム

本研修に登場する重要なキーワードを解説します。まずは「システム」です。この言葉を耳にするとコンピュータ関連かと思われるかもしれませんが、「目的を成し遂げるための相互に作用する要素を組み合わせたもの」と定義され、要素の足し算以上の価値をうみだすものがシステムです。複雑化する私たちの社会やビジネス環境は、まさに大規模なシステムです。複雑な問題を解決するためには、要素を個別に見るのではなく、対象を多視点から捉えたいうえで、システム全体を俯瞰し、要素間の関係性を分析して構造化・可視化をしていく必要があり、このようなアプローチを「システム思考」と呼びます。

システム×デザイン思考

「デザイン思考」とは、観察・発想・試作を繰り返してチームで協創する活動であり、感性などの主観を重視した思考方法になります。私たち慶應SDMでは、客観的な「システム思考」と、主観的な「デザイン思考」を融合することでイノベーションを生み出すための独自の思考方法を「システム×デザイン思考」として提唱しており、本研修の中でも最も重要かつ特徴的なスキルと位置付けています。ふたつの思考方法をバランスよく融合した日本発、慶應SDMオリジナルの「システム×デザイン思考」をぜひ本研修で習得してください。

マネジメント

システム(S)、デザイン(D)、マネジメント(M)の融合をあらゆる分野に適用し、次世代の社会を創りあげるリーダーの輩出を目指した慶應SDMでは、アイデアを実現するための「マネジメント」能力をとっても重視しています。「システム×デザイン思考」で提案されたアイデアがどんなに良いものでも、実現に向けていかなければ意味がありません。英語の「Manage」という単語には「上手に扱う、切り盛りする、どうにかしてする」というニュアンスがあるように、上から目線の管理ではなく、現場に入り込んで知恵を駆使する、目標を達成するためのスキルなのです。

※スケジュール内容は変更される場合があります

●後半

11/16月

11/17火

11/18水

【前泊可能】

朝食勉強会
当 麻

朝食勉強会
当 麻

休 憩

休 憩

休 憩

「グループ・プレゼンテーション」
濱・萩本・大塚・当麻

「プロジェクトスコープマネジメントと進捗管理」
大 塚

「とことん考える習慣で本質把握力を鍛える」
米 澤

休 憩

休 憩

休 憩

「グループ・プレゼンテーション」
濱・萩本・大塚・当麻

「プロジェクトリスクマネジメント」
大 塚

「自分事化で状況予見力を鍛える」
米 澤

昼食(各自)

昼食(各自)

昼食(各自)

「プロジェクトマネジメント標準と
ビジネスアナリシス」 大 塚

「21世紀のプロジェクトビジネス環境の変化と
国際競争力アップのポイント」 高 橋

「多角的視点をもたらす発見」
米 澤

休 憩

休 憩

休 憩

「ビジネスアナリシス(要求分析)と
プロジェクト・スコープ」 大 塚

「プロジェクトを成功に導くプロジェクト実施段階の
強化ポイント」 高 橋

「マネジメント・イノベーション・協創・幸せの関係」
前 野

休憩(Coffee Break) & 講師との個別相談

休憩(Coffee Break) & 講師との個別相談

休 憩

「交渉・関係性理論」
高野・大塚

「プロジェクト遂行のための統合インフラ
基盤の構築と活用」 高 橋

「プロジェクト・デザインを実践に生かす」
当 麻

夕食(各自) & 自由時間

夕食(各自) & 自由時間

移 動

「組織内コミュニケーションスキル向上」
高野・越前

「失敗事例から学ぶITプロジェクトの難しさ」
磯 川

修講式
▶日吉キャンパス ファカルティ・ラウンジ
17:30-19:30

休 憩

休 憩

「人間関係構築スキル向上」
高野・越前

「ITプロジェクト実務のポイント
～プラントと比較して～」 高橋・磯川

休 憩

休 憩

ネットワーキング(自由参加)▶7階会議室
宿泊▶7階研修施設

ネットワーキング(自由参加)▶7階会議室
宿泊▶7階研修施設

ステークホルダー

プロジェクトの実施により何らかの利害を受ける個人や組織を「ステークホルダー」と呼びます。プロジェクトから共通の利益を得るプロジェクト・マネージャーやメンバー、顧客、ユーザー等の直接的な関係者だけでなく、プロジェクトの反対者や一般大衆、官公庁などの外部組織もステークホルダーです。本研修では、プロジェクトのビジョン策定に重要な、直接顧客が価値を提供する間接顧客(顧客の顧客)のニーズの理解について学ぶとともに、内部・外部のステークホルダーの様々な期待をマネジメントし、トレードオフを考慮した意思決定の手法も学んでいきます。

プロジェクトとプログラム

反復でない個別の成果物(製品、サービス、成果など)を創り出すために実施する有期性のある業務を「プロジェクト」と定義しています。一方、複数のプロジェクトを有機的に組み合わせ、調和のとれた方法でマネジメントすることにより、個々のものからは得られないベネフィットを得る活動を「プログラム」といいます。そしてこれらを目指して戦略を立て、目標達成を目指して、知識とツール、技法を駆使していくのが、「プロジェクトマネジメント」および「プログラムマネジメント」です。

ビジネスアナリシス

プロジェクトで創造する成果物のスコープを分析する「ビジネスアナリシス」の作業は、要求分析と呼ばれることもあります。単に要求を聞くだけではなく、業務の問題を解決する方法(ソリューション)を分析することが大切です。スコープのブレを防ぐためには、ステークホルダーの要求や具体的なソリューションの要求を、組織戦略と結びつけることが重要となってきます。この研修では、組織としてどのような価値創造を行うのか、具体的な要求をそれとどのように結びつけるのかを学び、ビジネスアナリシス等の標準プロセスと結び付けていきます。

講師プロフィール



前野 隆司
Takashi Maeno

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
委員長・教授 博士
(工学)

キヤノン(株)、慶應義塾

大学理工学部を経て現職。専門分野:人間システムデザイン(社会・コミュニティ、教育、地域活性化、農業、NPO、ヒューマンインタフェース、認知科学・哲学など)。著書:「思考脳のつくり方」(角川新書)「幸せのメカニズム」(講談社)など多数。



高野 研一
Kenichi Takano

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授 博士(工学)

元・財団法人電力中央研究所上席研究員。専

門分野:大規模技術システムにおけるリスクマネジメントとヒューマンファクター。著書(訳書):「組織事故」「保守事故」(日科技連出版)など多数。組織安全・根本原因分析など豊富な安全管理の実務、コンサル経験。



白坂 成功
Seiko Shirasaka

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科准教授
博士(システムデザイン・マネジメント学)、PMP

三菱電機株式会社では

「こうのとりのり」(HTV:H-II Transfer Vehicle)の開発でアビオニクスアーキテクチャ設計、システム安全設計をはじめ、全体インテグレーションを行う。フライトコントローラとして運用終了まで実施。「こうのとりのり」開発では多くの賞を受賞。2011年度より現職。専門分野は、システムズエンジニアリング、システム×デザイン思考。



高橋 良之
Yoshikuni Takahashi

テクノエンジ代表

1964年日揮株式会社入社、国内・海外の石油精製、化学、食品加工、家電、自動車関連プラントのプロジェクトを

プロジェクトマネジャーとして担当。エンジニアリング振興協会(当時)では、80年代にプロジェクトマネジメント部会委員を務める。現在は大学を含めたプロジェクトマネジメントの講座、研修会の講師、コンサルタントなどを行っている。



大塚 有希子
Yukiko Otsuka

株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
専任講師

経済産業省、中小企業庁からの優秀案件採択、表彰など。金融機関

人事部門、戦略企画部門を経て、現在は、戦略・マネジメントに関するコンサルティング、制度設計および人材育成を行っている。SDM研究所のPMP®資格受験対策講座も担当。



米澤 創一
Soichi Yonezawa

アクセンチュア株式会社
テクノロジーコンサルティング
本部 SAPビジネスインテグレーショングループ 統括
マネジング・ディレクター 慶應義塾
大学大学院システムデザイン・
マネジメント研究科 非常勤講師

アクセンチュア株式会社にて品質管理責任者、プロジェクトマネジメントグループ統括等の役割を歴任。現在はテクノロジーコンサルティング本部における最大のグループの一つを統括し、組織運営、後進の育成を行う立場にある。また、テクノロジーコンサルティング本部の教育責任者、全世界のアクセンチュアにおけるSAP部隊のCapability Developmentのリードも務める。



濱 久人
Hisato Hama

株式会社NTTデータユニバーシティ研修事業部
グループマネジャー IPA
情報処理技術者試験委員、
PMI教育委員会委員、
PMAJ研修委員会委員
北海道大学・東北大学・産業

技術大学院大学・慶應義塾大学 非常勤講師

建設コンサルタントで都市計画、交通計画のプロジェクトを担当、その後パナソニック株式会社のシステムソリューション部門及び人材開発部門にてシステム開発部門のSE及びPMとして、各種プロジェクトを担当。現在はNTTデータの研修機関である株式会社NTTデータユニバーシティに在籍。専門はプロジェクトマネジメント・事業戦略・人材育成など。現在は、事業戦略・プログラム&プロジェクトマネジメント・パーソナルスキル・技術者のキャリア形成などの研修を担当。



磯川 昌弘
Masahiro Isokawa

(株)日立システムズ
プロジェクトマネジメント
推進本部主管技師、
PMP、慶應義塾大学
大学院システムデザイン・
マネジメント研究科 非常勤
講師、IT見える化協会会員

1978年(株)日本ビジネスコンサルタント(当時)入社。約30年にわたり金融業界の数々のシステム構築に携わり、ITシステムのアーキテクチャ設計に従事、傍ら現場でのプロジェクトマネジメント管理体系の整備を手掛ける。2013年より現職に移籍し、全社的なプロジェクトマネジメント管理体系の整備に従事。2014年より慶應SDMにて、ITにおけるプロジェクトマネジメントの実務面の講義を担当。



萩本 順三
Junzo Hagimoto

株式会社 匠 Business
Place代表取締役 慶應
義塾大学大学院システム
デザイン・マネジメント研究科
非常勤講師

IT企業にて、オブジェクト指向
方法論(Drop)の開発や、

分散オブジェクト技術(HORB)の開発リーダーを務め、2000年、エンジニアリングをビジネスに活かす会社として豆蔵を仲間と設立。副社長、CTO、取締役、プロフェッショナルフェローなどを務め、ビジネスとITを繋げる手法、要求開発方法論(Openthology)の初版バージョン0.6を策定。総務省行政管理局技術顧問、内閣官房IT室GPMO補佐官として政府のIT化戦略・実施マネジメント(e-japan)に3年間携わったのち、2009年、IT企業、ユーザ企業の改革を支援するために匠ビジネスプレイス(匠BP)を設立。要求開発方法論の発展形となる匠メソッドを作成し、ビジネス企画・製品企画・業務改革等でコンサルティング・教育を行う。

第7回「システム×デザイン思考」を实践に生かす プロジェクト・デザイン合宿研修 募集要項

期 日：2015 年10月21日(水)～23日(金)、11月16日(月)～18日(水)
会 場：慶應義塾大学日吉キャンパス協生館
募集定員：25名
対 象：イノベティブなプロジェクトのリーダーを目指すビジネスプロフェッショナル
受 講 料：250,000円(税別) ※宿泊費は別途お納めいただきます
申込方法：WEBサイトよりお申込ください。

協生館宿泊施設

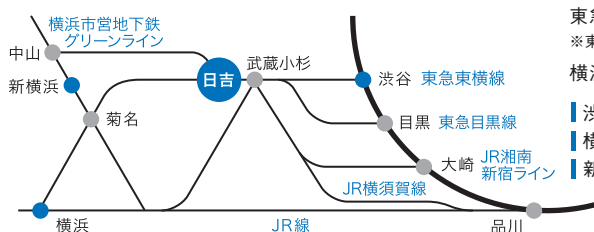
合宿形式セミナーのため、10月21日(水)、22日(木)および11月16日(月)、17日(火)は、原則として協生館内の研修宿泊施設へ宿泊していただきます。



システムデザイン・マネジメント研究所(SDM研究所)とは？

SDM 研究所は、企業をはじめ社会のあらゆる組織におけるシステムデザイン・マネジメントの理解とマネジメント能力の向上のため先端的研究・教育を行い、広く社会の発展に寄与することを目的として設立された研究科附属の研究所です。
公開講座・講演会・セミナー等の開催ならびに講師派遣、システムデザイン・マネジメントに関する研究調査、外部機関との研究プロジェクトの推進、国際機関・世界各地の大学および研究機関との協力・提携ならびに交流などの事業を行っています。

●交通アクセス



東急東横線、東急目黒線
※東急東横線の特急は日吉駅に停まりません。

横浜市営地下鉄グリーンライン

■ 渋谷～日吉：急行18分(通勤特急16分)
■ 横浜～日吉：急行12分(通勤特急10分)
■ 新横浜～日吉：14分

日吉駅直結

●お問合せ先

慶應義塾大学
日吉学生部 SDM 担当



〒223-8526 横浜市港北区日吉4-1-1 協生館
Tel: 045-564-2518 Email: sdm@info.keio.ac.jp

<http://www.sdm.keio.ac.jp/>